

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第60集

曾根城遺跡Ⅱ

SONEJYOU

長野県佐久市小田井
曾根城遺跡Ⅱ発掘調査報告書

1998.3

株式会社平和不動産
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第60集

曾根城遺跡Ⅱ

SONEJYOU

長野県佐久市小田井
曾根城遺跡Ⅱ発掘調査報告書

1998.3

株式会社平和不動産
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成9年に調査した、長野県佐久市大字小田井に所在する曾根城遺跡Ⅱの調査報告書である。

遺 跡 名 曾根城遺跡Ⅱ

所 在 地 長野県佐久市大字小田井字曾根城197-3

調 査 面 積 約80㎡

開発主体者 株式会社 平和不動産

開発事業名 宅地造成

- 2 本調査は、株式会社平和不動産の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、羽毛田卓也を担当者とし、地元の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
- 4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 5 本書作成の主たる作業分担は、以下のとおりである。

遺物・遺構実測 羽毛田卓也、浅沼ノブエ、神津ツネヨ、花岡美津子、細菅ミスズ

遺物・遺構トレス、写真、執筆・編集 羽毛田卓也

凡 例

- 1 遺跡の略称 OSJⅡ
- 2 遺構の略称 M→溝状遺構 P→柱穴
- 3 遺構の縮尺は図中にスケールを付したので参照されたい。
- 4 遺構の海拔標高は、各遺構ごとに統一し、測量基準ライン上に明記した。
- 5 写真図版・表中の番号(例12-3)は挿図番号(例第12図3番)と対応する。
- 6 土層説明中の上色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・(財)日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準十色』の表示に基づいた。
- 7 写真図版中の遺物の縮尺はその都度明記した。

目 次

例言

凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	3
3 調査の体制	3
4 調査日誌	4
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
1 遺跡の自然的環境	5
2 遺跡の歴史的環境	5
第Ⅲ章 遺構と遺物	9
写真図版	13

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

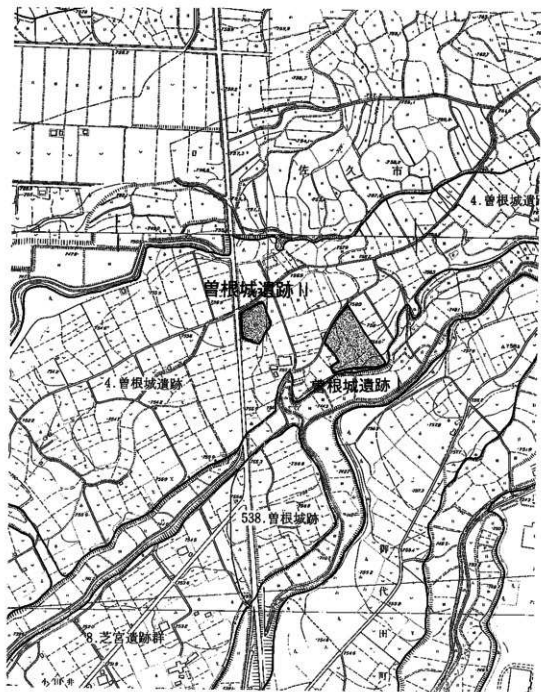
1 調査に至る動機

曾根城遺跡は、佐久市大字小田井に所在し、南北に伸びる^谷切地形（帯状低地と帯状台地の交互地形）の帯状台地上標高752mから763mに展開する縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。本遺跡は平成4年に試掘調査され奈良時代と考えられる住居址が確認されている。今回調査した曾根城遺跡Ⅱは、本遺跡中央北端の標高757m内外を測る台地中央に位置する。

今回、株式会社平和不動産が行う宅地造成事業に伴い、株式会社平和不動産と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査による遺構の確認作業を行うこととなった。試掘調査により対象地全体に平安時代と中世の遺構が広がっていることが判明し、再度両者で協議を行った。その結果、全体に盛り土をすることとし、浄化槽設置箇所については株式会社平和不動産より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。



第1図 曾根城遺跡Ⅱ位置図 (1 : 50,000)



第2回 曾根城遺跡Ⅱ位置図 (1:5,000)

2 調査の概要

平成8年度	試掘調査		
	調査面積	1,394㎡	
	調査期間	平成9年1月21日	
	検出遺構	竪穴住居址	7軒
		上坑・ピット	数基
		溝状遺構	3条
平成9年度	本調査		
	調査面積	約80㎡	
	調査期間	平成9年4月7日から平成9年4月12日	
	調査遺構	柱穴	1基
		中・近世の溝状遺構	2条
		古代の洪水跡	
	整理調査	平成9年11月26日から平成10年3月31日	

3 調査の体制

平成9年度

事務局	佐久市教育委員会埋蔵文化財課
教育長	依田英夫
教育次長	市川 源
埋蔵文化財課長	須江仁胤
管理係長	榑沢慶子
埋蔵文化財係長	大塚達夫
埋蔵文化財係	林幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林眞寿、羽毛田卓也 富沢一明、上原学
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査員	浅沼ノブ江、荒井利男、飯沢つや子、磯貝はな、江原富子、柏原松枝、 川多アヤ子、神津ツネヨ、神津よしの、小須田サクエ、花岡美津子、花里八重子、 細萱ミスズ、桃井もとめ、山口丑男

4 調査日誌

平成9年4月4日

現地打合わせ、機器材の搬入など

平成9年4月7日・8日

重機による掘削

平成9年4月7日～

調査開始 プランの確認作業など

平成9年4月8日～

遺構の掘り下げ開始

平成9年4月9日～

実測作業開始 写真撮影開始

平成9年4月11日

遺構の掘り下げ終了

平成9年4月12日

重機による埋め戻し

平成9年4月11日～14日

機器材の搬出

平成9年11月26日～平成10年3月31日

土器等水洗いおよび遺物の注記、実測図面の修正

土器の復元、石器・土器の実測

遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影

本文の原稿執筆および編集作業

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北に浅間山を主とする三國山脈の南端峰群、東から南に関東山地から連なる山々である佐久山地、西から南に八ヶ岳連峰と、四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置する。佐久平全体の平坦部の標高は600mから1000mを測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は620mから770mを測る。また北側で軽井沢町・御代田町・小諸市と、西側で浅科村・望月町と、南側で茅野市・佐久町・白田町と、東側で群馬県下仁田町・南牧村と接している。

佐久市の中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山に源を発する湯川・濁川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・滑津川・子田川・瀬早川・八重久保川、八ヶ岳に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘を形成している。佐久山地の八風山や奇石山・物見山・兜岩山・熊倉峰・荒船山は、石英安山岩類や溶結凝灰岩類・ガラス質の荒船安山岩類により形成されている。これらの山の基盤には第三紀層・中生層や古生層が広がっているとされている。内山の初谷層は中生層で内山層は第三紀層である。また兜岩層・駒込層・八重久保層は第三紀層である。

浅間山は今から1万4千年から1万1千年前にかけて2回にわたる大規模な噴火をし、軽石流(火砕流)を発生させている。平成4年度の寄山遺跡の調査で軽石流により埋没した林が発見された。

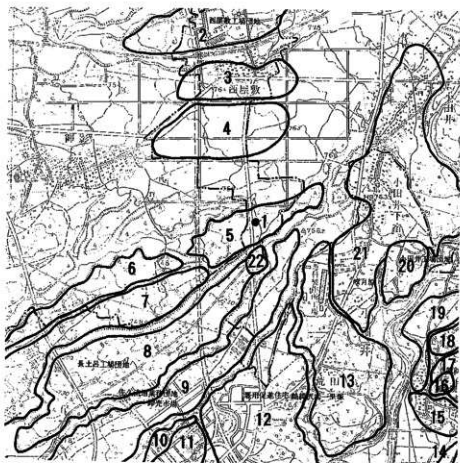
発見された木々は立ったままの状態、発見面から根元までは7mの深さであった。この地は軽石流の最南東端にあたり、斜面に乗り上げる形で堆積している。そのため木々は倒れることなく立ったまま埋まったと想定される。樹種はほとんどが針葉樹のトウヒ属であり、現在より冷涼な気候であったことがうかがえる。佐久平の北側は、浅間山第1軽石流の火山噴出物によって厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。この山麓は火山噴出物の性格上水の各種作用を受けやすく、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帯状台地と帯状低地の交互地形が見られる。今回調査した曾根城遺跡Ⅱは、佐久市の北側の南北に伸びる2本の田切り低地に挟まれた帯状台地上に展開している。

2 遺跡の歴史的環境

今回調査した曾根城遺跡Ⅱの周辺には、縄文時代から中世にかけての遺跡や遺跡群が密集している。曾根城遺跡は平成3年度に試掘調査され、奈良時代の住居址1軒が確認されている。今回

曾根城遺跡Ⅱで検出された遺構は、奈良から平安時代にかけてと考えられる大規模な洪水跡と、中世から近世の溝状遺構・柱穴である。また遺物は奈良・平安時代の坏・甕の破片や中近世の陶磁器・石臼などが出土している。この地域の遺跡は田切り低地に挟まれた帯状台地に広範囲にかつ高密度で展開している。8年間にわたり調査された聖原遺跡や下型端遺跡・上型端遺跡を含む長土呂遺跡群、下芝宮遺跡や上高山遺跡・下曾根遺跡を含む芝宮遺跡群がその典型的な例である。近年の開発による発掘調査により、この佐久市北部の田切地帯には古墳時代から平安時代にかけて想像をはるかに超える規模の大集落群が形成されていたことが明らかになってきた。

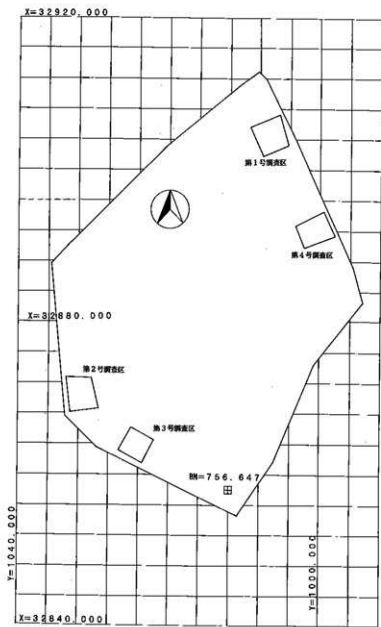
その他周辺の各遺跡および時代等の詳細は第3図と第1表を参照されたい。



第3図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

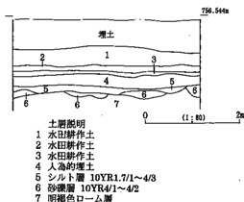
第1表 周辺遺跡一覧表

No	遺跡名	時代	所在地	備考
1	曾根城遺跡Ⅱ	古墳～近世	小田井	今回調査
2	下前田郡遺跡群	奈良～中世	小田井	後原遺跡 (S57)
3	錦師屋遺跡群	古墳～中世	小田井	前田遺跡 (S60～62)
4	錦師屋遺跡群	古墳～中世	小田井	錦師屋遺跡 (S59・61)
5	曾根城遺跡	縄文～中世	小田井	曾根城跡 (H4)、今回調査
6	近津遺跡群	弥生～平安	長土呂	北近津遺跡 (S46)、上宮原遺跡 (H2)
7	周防畑遺跡群	縄文～平安	長土呂	周防畑遺跡 (S54・55)、若宮遺跡 (S58、H7) 南近津遺跡 (H9)
8	芝宮遺跡群	縄文～平安	小田井・長土呂	芝宮遺跡 (54・55・57)、下芝宮遺跡 (S62・63、H1) 南上下中原遺跡(S63、H5)、高山遺跡(H5・7) 上高山遺跡 (H1・3)、上芝宮遺跡 (H4～9) 下曾根遺跡 (H4～9)
9	長土呂遺跡群	弥生～中世	長土呂	聖原遺跡 (H11～7)、下聖原遺跡 (S63、H11・4) 上聖原遺跡 (S63)、上大津遺跡 (S63)
10	曾根新城跡・新城遺跡	弥生～平安	岩村田	曾根新城遺跡 (H1～5)
11	枇杷坂遺跡群	弥生～平安	岩村田・長土呂	上久保田向遺跡 (H2～6)、琵琶坂遺跡 (S60) 上直路遺跡 (S60)
12	栗毛取遺跡群	弥生～平安	小田井・岩村田	中曾根遺跡 (H1)、上曾根遺跡 (H2) 西曾根遺跡 (H3・5)、前藤部遺跡 (H5・8・9)
13	跡坂遺跡群	弥生～平安	小田井・横根	跡坂遺跡 (H9)
14	白岩城跡	中世	上平尾	白岩城跡 (S63)
15	延寿城遺跡群	平安	横根	
16	延寿城跡	中世	横根	
17	上の原遺跡群	縄文～平安	横根	
18	上長坂遺跡群	縄文～平安	横根	
19	平の原遺跡群	縄文～平安	横根	
20	金井城跡	中世	小田井	金井城跡 (S63)
21	中金井遺跡群	弥生～平安	小田井	上金井遺跡 (S62)、中金井遺跡 (S63、H1)
22	曾根城跡	中世	小田井	

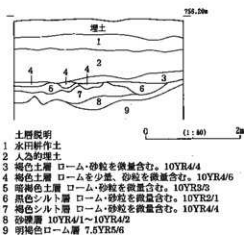


第4図 管根城遺跡調査区全体図

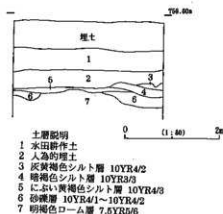
第Ⅲ章 遺構と遺物



第5図 第1号調査区上層断面図



第6図 第3号調査区土層断面図

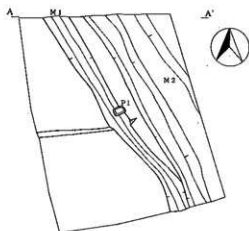


第7図 第4号調査区土層断面図

調査区全体に都合4ヶ所のトレンチ（浄化槽設置部分）を掘削し、それぞれ第1号～第4号と名称をつけ、埋土と旧耕作土は重機により、旧耕作土下層の人為的埋土は手作業で掘り下げた。

それぞれの調査区を掘り下げた結果、第2号を除く第1号・第3号・第4号から遺構は検出されなかったが、古代の洪水跡、成いは河川流路の痕跡が確認され、シルト・砂礫層から古墳時代と奈良時代・平安時代前半に属する上器の甕や坏、須恵器の甕や坏の摩耗した破片が出土した。

第2号調査区からは近世と考えられる溝状遺構（M2号）と近世以前と考えられる溝状遺構（M1号）と柱穴（P1号）が検出された。遺物はM2号溝状遺構より、近世陶磁器と石臼が出土した。またP1号柱穴からは断面長方形の柱の基部が腐食せずに、据えられたままの状態で出土した。



- 土層説明
- 1 U字溝敷設時の埋土
 - 2 耕作土
 - 3 黒褐色土層 M2号覆土。パミス極小粒・ロームを微量含む。
10YR3/2
 - 4 暗褐色土層 M2号覆土。パミス極小粒を微量、ロームを少量
含む。10YR3/4
 - 5 黒褐色土層 M3号覆土。パミス極小粒・ロームを微量含む。
10YR2/3
 - 6 褐色土層 M3号覆土。ロームを少量含む。10YR4/4

第8図 第2号調査区全体図



1
須恵
高台付坏



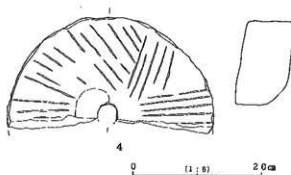
2



3
撚り石

0 (1:4) 10cm

第9図 曾根城遺跡II出土遺物実測図



第10図 M2号溝状遺構出土石口網測図



第11図 曾根城遺跡Ⅱ出土須恵器折影図

第2表 曾根城遺跡Ⅱ出土遺物説明表

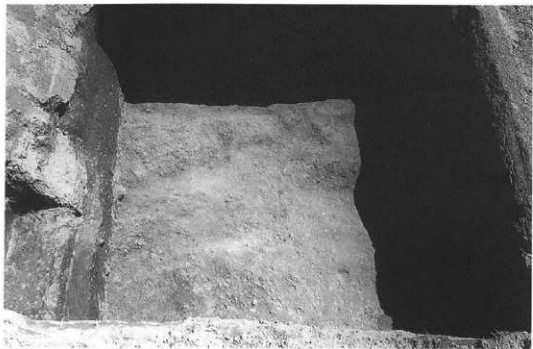
博覧番号	種 類	材 質	出 土 地 点	特 徴
9-1	高台付坏	須恵器	第4号調査区	内外面クロクハナデ。底部高台貼付け。
9-2	甕	磁器	M2号	包胎付け。
9-3	撥り石	輝石安山岩	第3号調査区	両端部を中心に使用痕跡。
10-4	石臼	安山岩	M2号	下臼。約半分欠損。
11-5	甕	須恵器	第3号調査区	叩き目調整。
11-6	甕	須恵器	第3号調査区	叩き目調整。
11-7	甕	須恵器	第4号調査区	叩き目調整。



第2調査区全体写真 東より



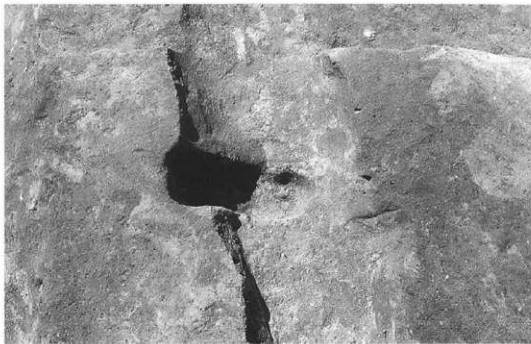
第1調査区全体写真 西より



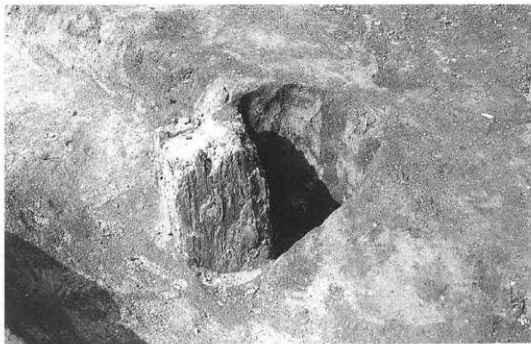
第3調査区全体写真 西より



第4調査区全体写真 東より



P1号柱穴 北より



P1号柱穴 柱眼 南より



石10-4 (1:5)



須恵器高台付坪 9-1 (1:3)



須恵碗 9-2 (1:3)



曾根城遺跡Ⅱ近景 南方より 後方は浅間山



曾根城遺跡Ⅱ近景 西方より 後方は平尾富士

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- | | | | |
|------|-------------------------|------|-----------------------|
| 第1集 | 『金井城跡』 | 第30集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1992』 |
| 第2集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1990』 | 第31集 | 『山法師遺跡A・筒村遺跡A』 |
| 第3集 | 『石附塚趾Ⅱ』 | 第32集 | 『東ノ割』 |
| 第4集 | 『大ふけ』 | 第33集 | 『聖原遺跡Ⅳ・下曾根遺跡Ⅰ・前藤邸遺跡Ⅰ』 |
| 第5集 | 『文科F遺跡』 | 第34集 | 『西一本柳遺跡Ⅰ』 |
| 第6集 | 『上曾根遺跡』 | 第35集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1993』 |
| 第7集 | 『三貫畑遺跡』 | 第36集 | 『蛇塚B遺跡Ⅱ』 |
| 第8集 | 『道の下遺跡』 | 第37集 | 『西一本柳遺跡Ⅱ・中西ノ久保遺跡』 |
| 第9集 | 『国道141号線関係遺跡』 | 第38集 | 『南下中原遺跡Ⅱ』 |
| 第10集 | 『聖原遺跡Ⅱ』 | 第39集 | 『中原敷遺跡』 |
| 第11集 | 『赤座垣外遺跡』 | 第40集 | 『古畑遺跡』 |
| 第12集 | 『菅宮遺跡Ⅱ』 | 第41集 | 『曾根新城Ⅰ～Ⅳ・Ⅵ他』 |
| 第13集 | 『上高山遺跡Ⅱ』 | 第42集 | 『宍山』 |
| 第14集 | 『栗毛坂遺跡』 | 第43集 | 『権見平遺跡』 |
| 第15集 | 『野馬久保遺跡』 | 第44集 | 『寺澤遺跡』 |
| 第16集 | 『石並遺跡』 | 第45集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1994』 |
| 第17集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1～3月) | 第46集 | 『湯り遺跡』 |
| 第18集 | 『西曾根遺跡』 | 第47集 | 『上芝宮遺跡Ⅴ』 |
| 第19集 | 『上芝宮遺跡』 | 第48集 | 『池端城跡』 |
| 第20集 | 『卜聖畑遺跡Ⅱ』 | 第49集 | 『根々井之宮遺跡』 |
| 第21集 | 『金井城跡Ⅱ』 | 第50集 | 『藤塚遺跡Ⅱ』 |
| 第22集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1991』 | 第51集 | 『寺中遺跡・中屋敷遺跡Ⅱ』 |
| 第23集 | 『南上中原・南下中原遺跡』 | 第52集 | 『坪の内遺跡』 |
| 第24集 | 『上聖端遺跡』 | 第53集 | 『門正坊遺跡Ⅱ』 |
| 第25集 | 『上久保田Ⅳ』 | 第54集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1995』 |
| 第26集 | 『藤塚古塔群・蔵塚Ⅱ』 | 第55集 | 『番屋前遺跡』 |
| 第27集 | 『上久保田Ⅲ』 | 第56集 | 『聖原遺跡Ⅲ』 |
| 第28集 | 『曾根新城Ⅴ』 | 第57集 | 『高野町遺跡Ⅱ』 |
| 第29集 | 『山法師遺跡B・筒村遺跡B』 | 第58集 | 『下穴虫遺跡Ⅰ』 |
| | | 第59集 | 『市内遺跡発掘調査報告書1996』 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第60集

曾根城遺跡Ⅱ

1998年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社佐久印刷所

